

第4回三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会の概要について

1. 日時 平成30年2月8日(月) 10:00~12:20
2. 場所 三重県吉田山会館 2階 第206会議室
3. 出席者 委員7名 他2名

浅井 敬介	中部経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課長
伊藤 信彦	一般社団法人三重県トラック協会 専務理事
田中 彩子	鈴鹿商工会議所 会頭
○ 寺田 卓二	環境教育ネクストステップ研究会代表 (元四日市中央工業高等学校長)
永井 均	中部地方環境事務所 環境対策課長
西岡 慶子	株式会社光機械製作所 代表取締役社長
◎ 朴 恵淑	三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授 地域ECOシステム研究センター長

敬称略・50音順 ◎：委員長、○副委員長

【要綱2条6項に基づく出席者】

木塚 晴久	四日市市環境部 環境保全課 環境調整係長
長谷川 晋	マックスバリュ中部株式会社 総務部 株式・法務・環境社会貢献担当マネージャー

4. 概要

(1) 三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会設置要綱の改定

- ・同要綱第2条記載文の改定案について承認を得る。

(2) 委員長及び副委員長の選出

- ・委員長は三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科 朴教授、副委員長は環境教育ネクストステップ研究会 寺田代表を事務局案として選出。

(3) 県の温室効果ガスの排出状況の推移

【主な意見】

三重県地球温暖化対策実行計画事務事業編の進捗率において、公用車の燃料使用量の削減は進んでいない。ある程度の初期投資を行い、公用車の更新を進

めるべきである。

また、良い取組であるノー残業デーを広めていくには、地球温暖化対策の側面だけでなく、子どもや家庭の取組といったいろいろな分野と連携していくべきである。

産業部門の削減状況を見ると素晴らしいといえるが、これは個々の企業の活動がよいからと言える。しかし、三重県が何をしているのかが、見えてこない。県全体の一体感がなく、企業としても活動をしていくうえで価値を見出しにくい。産業支援センターや商工会議所などのチャンネルを使って、三重県の産業部門の削減率がよいか、こういったことを県がしたいなど県内の企業に三重県から情報を発信してほしい。

太陽光の導入や空調機器の買い替えにより、かなり電気代が減る。新しい会社は、設備が新しいためエネルギー消費の割には生産性が高いといえるが、昔からある会社は設備の更新をしたいと考えていると思うので、更新のあと押しになるような情報を提供してほしい。よい取組をしている企業を表彰するなどして外部に発信してほしい。

SDGs や ESD とリンクをさせたらよいのではないかと。世界と通じることになり、三重県の評価により投資や融資が周りやすくなるといったものを作してほしい。

自動車が少ない燃料で走れるように、渋滞をしないようなインフラ整備をしてほしい。

(4) 地球温暖化対策に向けた今後の取組について

【主な意見】

環境学習情報センターの講座と県の取組が関連していないのではないかと。昔からの講座が続いているのはどうか。県からセンターに対して方向性を示しているのか。

気候講演会を通じて温暖化への適応を周知したいという考えはよいが、この適応こそが温暖化対策を進めていくうえでの方向性を示すものであることから、環境・ビジネス・生活といった幅広い分野で実施すべきである。